

令和3年度事前評価 研究評価委員会の評価結果および総合評価

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		必要性 ・ 緊急性	適切性	研究計画 の	成果の 活用 可能性	評価	意見	評価
<b>道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発</b>								
○花野菜技術センター 中央農業試験場 十勝農業試験場 (R4-R7)	a	b	a	A	カボチャの省力栽培・多収栽培・長期出荷に関する重要な課題である。研究目標を達成するために、品種選定、栽培技術、調整技術、貯蔵技術の関連性を明確にすること。また、異なる食味や品質をもつ複数の品種を類型化するなど、ニーズが高い特性を絞り込むための研究をすること	A	研究目標を達成するために、品種選定、栽培技術、調整技術、貯蔵技術の関連性を明確にすること。また、異なる食味や品質をもつ複数の品種を類型化するなど、ニーズが高い特性を絞り込むよう研究計画に留意すること。研究期間を3年に短縮すること	
<b>持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化</b>								
○上川農業試験場 道南農業試験場 花野菜技術センター 北方建築総合研究所 工業試験場 (R4-R7)	a	b	a	A	施設園芸の通年生産化と省エネルギー化を推進する重要な課題である。研究計画間の関連性を明確にするとともに、実用化に向けて、導入規模を踏まえた費用対効果を意識して研究を進めること	A	研究計画間の関連性を明確にするとともに、実用化に向けて、費用対効果に基づいて最適な導入規模を決定することを意識して研究を進めること。研究期間を3年に短縮すること	
<b>秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発</b>								
○栽培水産試験場 工業試験場 (R4-R6)	a	b	a	A	日本海地域の漁業振興策として横展開が期待される重要な課題である。養殖かごと海流等の物理的条件の関係を定量的に評価するなど、研究成果が広く活用されることを意識すること。また、養殖ウニと天然ウニの食味等の品質の違いを意識して、配合餌料の調製や新たな加工・保存方法の開発を目指して研究を進めること	A	養殖かごと海流等の物理的条件の関係を定量的に評価するなど、研究成果が広く活用されることを意識すること。また、養殖ウニと天然ウニの食味等の品質の違いを意識して、新たな加工・保存方法の開発を目指して研究を進めること	
<b>カラマツ類及びトドマツの種苗配置適正化と優良品種導入による炭素吸収量増加効果の評価</b>								
○林業試験場 (R4-R6)	a	b	b	B	森林循環を早め、森林を炭素吸収源とする課題であるが、本研究のカーボンニュートラルへの貢献程度が不明である。既存シミュレーション・モデルの適用妥当性を検証し、森林成長について、精度の高い予測法を開発すること	B	森林循環を早め、森林を炭素吸収源とする課題であるが、本研究のカーボンニュートラルへの貢献程度が不明であるため、明確にすること。シミュレーション・モデルの妥当性を多角的に検討し、様々なシナリオを比較して、炭素吸収に有効な確実な対策を示すこと	

中高層建築物の外装木質化のための屋外用難燃処理木材の開発						
○林産試験場 工業試験場 北方建築総合研究所 (R4-R6)	b	b	a	B	道産木材の需要拡大につながる研究である。耐用年数経過後のメンテナンス方法を考慮するとともに、法的な防耐火性を踏まえて、成果の普及に留意しながら研究を進めること	C 中高層建築物に要求される法的防耐火構造を踏まえ、研究計画を再整理すること
農産物を対象とした目視品質検査の自動化技術の開発						
○工業試験場 (R4-R6)	b	b	b	B	省力化の効果が明確になるよう試験を組み立て、その効果を実証試験で示すこと。また、関連企業と連携し、成果が広く活用されることを意識して研究を進めること	B 省力化の費用対効果が明確になるよう試験を組み立て、その効果を実証試験で示すこと。また、関連企業と連携し、成果が広く活用されるよう開発目標を意識して研究を進めること。さらに中間評価までに実用化に向けて確実に研究を進展させること。課題名に「・実用化」を追加すること
道産木材を用いた木造建築物の LCCO <sub>2</sub> 評価と木造 LCCM モデルの提示						
○北方建築総合研究所 (R4-R5)	a	b	b	B	道産木材を用いた木造建築物の普及・定着に向けて研究計画をより明確化するとともに、成果が広く活用されるよう留意して研究を進めること	C 道産木材を用いた木造建築物の普及・定着に向けて研究目的が明確になるよう研究計画を再構築するとともに、成果が広く活用されるよう留意して研究を再検討すること